

# 令和7年度 リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 推薦要領

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会では、毎年、継続的な活動を通じて3Rに取り組み、資源の有効利用、環境への負荷の低減に顕著な実績を挙げている個人・グループ・学校・事業所・地方公共団体等を表彰する「リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」を実施しております。  
このたび令和7年度の募集を開始いたしますので、多数ご推薦くださいますようお願い申し上げます。

この表彰は、資源の循環利用に貢献する活動を推薦募集対象にしています。3Rという言葉で最初に思い出されるのは、モノを使用した後に適切な形でリユース・リサイクルをすることと思いますが、実際には原材料の投入の段階から製品が使用済みになった後の最終処分に至るまでの過程において、モノの削減、再使用・再生利用など様々な活動が行われています。

これらの活動の中には、3Rと区別してRepair（リペア、製品などを修理しながら長く使うこと）、Refuse（リフューズ、包装や袋などで不要なものを受け取らない）などの言葉で表現されるものもありますが、いずれも資源循環の活動の一部であり、すべてこの表彰の推薦募集対象です。

また、3Rとカーボンニュートラル、3RとLCA（ライフサイクルアセスメント）、3Rと地域振興など、3Rを実践しながら他の課題を同時解決するような活動もこの表彰の推薦募集対象です。

## <対象となる取組>

- ・自らが3R・資源循環を実践する活動であり他の模範となる取組
- ・他者・地域との3R・資源循環を推進するための連携、他者への3Rの啓発・教育活動など他の模範となる取組
- ・3R・資源循環を推進するための仕組みづくり、3Rを促進する製品の開発・普及などの活動

※ 推薦にあたっては「審査基準」（6ページ）の評価項目をご考慮ください。

※ リデュース、リユース、リサイクルのいずれか1つの取組も対象です。

また、これらの2つの組み合わせ、3つ全ての取組も対象です。

※ 他と比較して優れたところ、進んだところ、独自なところがあれば、既に比較的普及している3Rの取組であっても対象です。

- 推薦機関からの推薦締め切り  
2025年5月9日（金）（事務局に必着）
- 推薦締め切り後のスケジュール  
審査結果通知（推薦機関宛）： 2025年9月下旬 予定  
表彰式： 2025年10月下旬、東京 予定
- ご提出先及びお問い合わせ先  
リデュース・リユース・リサイクル推進協議会事務局 表彰推薦受付係  
〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目3番1号  
幸ビルディング3階 （一社）産業環境管理協会内  
(Eメール) 3r-comm@3r-suishinkyogikai.jp

主催 リデュース・リユース・リサイクル推進協議会



## <目 次>

表彰制度の概要、応募方法等	1
推薦一覧 様式	7
推薦書 様式	9
候補者の概要書 様式 1 (個人・グループ・学校用)	11
候補者の概要書 様式 2 (事業所・地方公共団体等用)	19
<参考1>表彰の募集対象となるリデュース・リユース・リサイクル (3R) の取組の例	26
<参考2>過去に受賞した取組の紹介	29



# 表彰制度の概要、応募方法等

## 1. 目的

リデュース（発生抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（再資源化・再生利用）（以下「3R」といいます）や資源の循環利用に率先して取り組み、継続的な活動を通じて顕著な実績を挙げている者を表彰することによりこれらの活動を奨励し、循環型社会の形成推進を図ることを目的としています。

## 2. 主催

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会

## 3. 後援

後日、協議会ホームページにて掲載

## 4. 募集対象

循環型社会の形成に向け、3R や資源の循環利用に率先して取り組み、資源の有効利用、環境への負荷の低減に継続的な活動を通じて顕著な実績を挙げている「個人・グループ・学校」及び「事業所・地方公共団体等」（以下「候補者」といいます）。なお、次のような活動が対象です（具体例は、26～27 ページの「表彰の募集対象となる3Rの取組の例」を参考にしてください）。

- 自らが3R・資源循環を実践する活動であり他の模範となる取組
- 他者・地域との3R・資源循環を推進するための連携、他者への3Rの啓発・教育活動など他の模範となる取組
- 3R・資源循環を推進するための仕組みづくり、3Rを促進する製品の開発・普及などの活動

※ 推薦にあたっては「審査基準」（6 ページ）の評価項目をご考慮ください。

（対象者）

- 「個人・グループ・学校」： 個人、自治会、ボランティア、学校 等
- 「事業所・地方公共団体等」： 企業、工場、都道府県、市町村 等

※ 複数の企業等がグループで行う活動は、「事業所・地方公共団体等」です。

※ 学校と企業の連名などの場合、どちらがより主体的に活動を行っているかによって「候補者の概要書」の様式を選んでください。不明な場合は、事務局（表彰推薦受付係）までご連絡ください。

## 5. 賞の種類

後日、協議会ホームページにて掲載

## 6. 募集方法

本表彰では、以下の①～③の推薦機関からの推薦により「4. 募集対象」に定める候補者を募集します。候補者が直接当協議会に自薦応募することはできません。

- ①リデュース・リユース・リサイクル推進協議会の会員団体
- ②地方自治体（都道府県、政令指定都市、中核市、特別区） ※2025年1月基準
- ③建設副産物対策地方連絡協議会

## 7. 応募の方法

### (1) 提出書類

推薦機関は、この推薦要領に定める様式により、以下の書類を提出してください。

- ①推薦一覧（推薦案件全体に対して1通作成）
- ②推薦書（候補者1件につき1通ずつ作成）
- ③候補者の概要書（候補者に作成を依頼し、内容を確認）

併せて、活動の様子がわかる写真、参考資料（パンフレット等）があれば、③に添付してください。提出書類の様式、提出部数等は下表をご参照ください。

この推薦要領（Microsoft Word 形式）はリデュース・リユース・リサイクル推進協議会のホームページからダウンロードできますのでご利用ください。（<https://www.3r-suishinkyogikai.jp/commend/commend/>）

提出書類	書類の作成者	記入様式	提出部数
①推薦一覧（推薦案件全体に対して1通作成してください。）	推薦機関	7ページ	全推薦案件に対して ・紙媒体1部 ・電子ファイル1部
②推薦書（1件の候補につき1通ずつ作成して、「③候補者の概要書」を添付してください。）*	推薦機関	9～10ページ	・紙媒体2部（正・副） ・電子ファイル1部
③候補者の概要書（添付資料を含む）	個人・グループ・学校用【様式1】	候補者	・紙媒体2部（正・副） ・電子ファイル1部
	事業所・地方公共団体等用【様式2】		

\* 推薦機関から特に申し伝えたい事項（推薦理由等）がある場合には推薦書に記述ください。

\* 上記書類を、紙媒体で「①+候補者分の（②+③の組み合わせを正、副）」及び電子ファイルで「①+候補者分の（②+③の組み合わせ）」にて提出してください（提出方法及び提出先は、下記（3）、（4）を参照）。

#### <提出にあたって>

- ・「③候補者の概要書」は、活動内容の写真（画像データ）や図表等を添付してください。  
また、活動内容に関する参考資料（パンフレット等）があれば、紙媒体2部及び電子ファイル1部を提出してください。
- ・提出書類はホッチキス留めにせず、クリップで留めてください。
- ・①～③の書類の電子ファイル（Microsoft Word ファイル）は、押印なしのままで提出してください。電子ファイルは候補者一覧データの入力、表彰結果発表冊子の原稿作成を行う際の文字のコピーなどに使用します。印刷したものをスキャナーで読み込んでPDFなどに変換したものは文字のコピーなどが出来ないため、記入したMicrosoft Word ファイルをそのまま提出してください。
- ・書き方が不明な場合、事務局（表彰推薦受付係）までご連絡ください。

### (2) 推薦機関からの提出期限

2025年5月9日（金）

### (3) ご提出方法

郵送又は持参で提出してください。

ただし、電子ファイルの提出は、Eメール（1通につき5MB以内）やファイル転送サービスなどでも可です。

### (4) ご提出先

〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目3番1号  
幸ビルディング3階 (一社) 産業環境管理協会内  
リデュース・リユース・リサイクル推進協議会事務局 表彰推薦受付係  
(Eメール) 3r-comm@3r-suishinkyogikai.jp

## 8. 推薦にあたっての注意事項

- ①推薦書（印刷物2部）は必ず推薦機関の代表者（協議会会員団体の長、都道府県知事、政令指定都市市長、中核市市長、特別区区長、建設副産物対策地方連絡協議会会長）、またはそれに準ずる役職者名で作成してください。なお、令和7年度（2025年度）から代表者の押印を不要とします。
- ②必ず事前に候補者の承諾を得ておいてください。
- ③推薦機関は、「候補者に法令違反の事実はない」「反社会的勢力では無い」「その他受賞者として相応しくない事項はない」ことを確認のうえ推薦してください（推薦書のチェック項目をご活用ください）。  
なお、チェック項目が全てクリアされている候補者であっても、審査において受賞者として不適当と判断されることがあります。
- ④過去に受賞した候補者を同じ取組内容で繰り返し推薦することはご遠慮ください。過去受賞時とは別の取組であれば推薦可能です。過去に受賞した企業の別の事業所や工場での活動、あるいは過去に受賞した建設会社や共同企業体が行う別の工事等は別の取組と見なします。
- ⑤過去受賞時の延長線上にある取組であっても、その後の拡大・発展が著しく上位賞の候補になると判断した場合は推薦可能です。その場合は、過去受賞時から拡大・発展したポイントについて、候補者の概要書の「過去の受賞歴及び他の表彰制度への応募状況」欄に記入してください。
- ⑥同じ取組内容で過去5年間に他の表彰制度にて受賞した場合又は他の表彰制度に推薦されている若しくは応募中の場合、同じく「過去の受賞歴及び他の表彰制度への応募状況」欄に記入してください。
- ⑦推薦機関は審査結果等については責任を負わないものとします。

## 9. 審査

有識者等からなる「リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰審査委員会」を設置し、「審査基準」（6ページ）に基づき、応募案件の審査を行います。

## 10. 結果の通知

推薦機関に審査結果（入賞内定または選外）通知（9月下旬予定）を送付した後、入賞内定者には内定通知（推薦機関へ通知した1週間～10日後）を送付します。選外については特に通知いたしません。

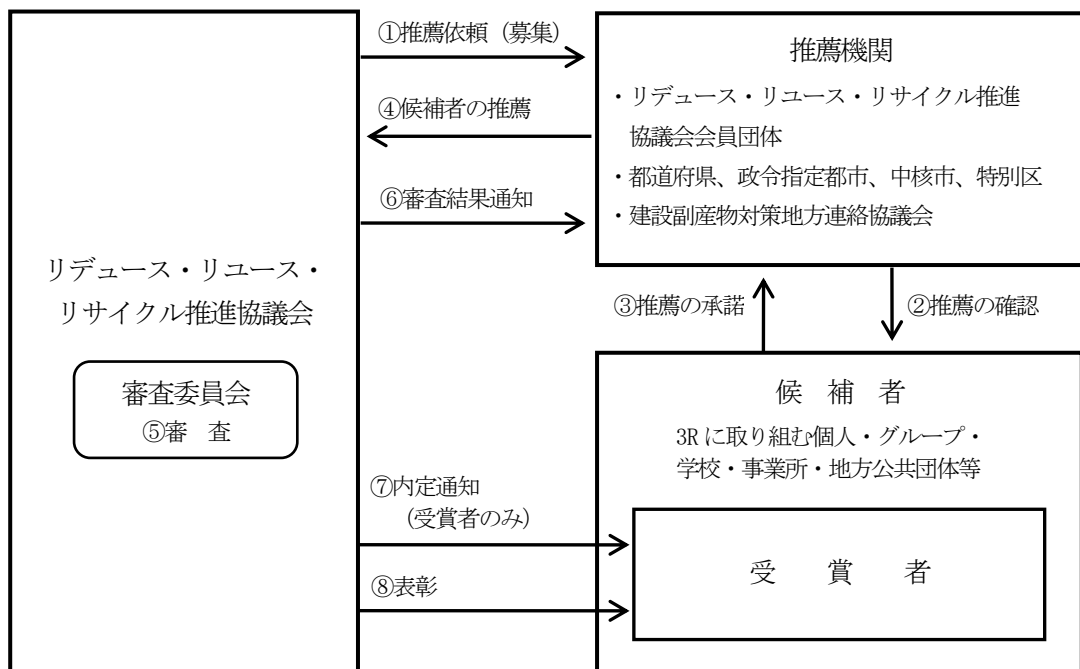
## 11. 表彰式

2025年10月下旬 東京都内で挙行予定

## 12. 個人情報の取り扱いについて

推薦書、候補の概要書等に記入された個人情報は、本表彰の実施に関連する用途以外には使用しません。

## 13. 募集から表彰までの流れ



[ 募集から表彰までの流れ ]



令和7年度

リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰  
審査委員会委員名簿（予定）

（敬称略）

氏名	所属機関
木村文彦	東京大学名誉教授
皆藤寛	日本商工会議所 産業政策第二部 課長
角田禮子	主婦連合会 常任幹事
小澤紀美子	東京学芸大学名誉教授
斎藤正一	日経BP社 日経ESG経営フォーラム事業部シニアプロデューサー
根村玲子	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 環境委員会委員長
細田衛士	東海大学副学長、政治経済学部経済学科・教授
斎須朋之	国税庁 長官官房審議官
茂里毅	文部科学省 総合教育政策局長
内山博之	厚生労働省 大臣官房医薬産業振興・医療情報審議官
小林大樹	農林水産省 大臣官房新事業・食品産業部長
龍崎孝嗣	経済産業省 脱炭素成長型経済構造移行推進審議官
塩見英之	国土交通省 総合政策局長
白石隆夫	環境省 環境再生・資源循環局長

## 審査基準

### ○個人・グループ・学校

評価項目	具体的な評価事項
継続期間	主体の特性に応じて活動の継続性を評価する。
対象品目・量等の実績、活動の効果	活動対象品目の範囲・3R対象量等の活動実績及び活動により得られた効果（廃棄物の削減効果、省資源・省エネ効果、環境保全効果等）を評価する。
地域性	活動範囲（実施主体の特性や活動内容を勘案しつつ、活動範囲の広さを評価する。） 他主体・他地域との連携（他の3R活動主体や他地域との連携について評価する。） 地域密着性（地域の特性や廃棄物問題を踏まえた活動であるかを評価する。）
活動頻度	活動頻度を評価する。
独創性・先鞭性	当該主体で考案された独自の活動か、先進的に取り組んだ活動かを評価する。
波及効果、啓発・教育効果	他者の3R活動に与えた効果を評価する。また、機関誌の発行、講演会・研修会の開催等による啓発・教育活動を行っている場合は、その効果を評価する。
その他評価	リデュース・リユース・リサイクルの各分野にわたる活動、上記評価項目や点数配分では評価しきれない優れた項目、内容等があれば、加点する。

### ○事業所・地方公共団体等

評価項目	具体的な評価事項
継続期間	主体の特性に応じて活動の継続性を評価する。
対象品目・量等の実績、活動の効果	活動対象品目の範囲・3R対象量等の活動実績及び活動により得られた効果（廃棄物の削減効果、省資源・省エネ効果、環境保全効果等）を評価する。
地域性	活動範囲（実施主体の特性や活動内容を勘案しつつ、活動範囲の広さを評価する。） 他主体・他地域との連携（他の3R活動主体や他地域との連携について評価する。） 地域密着性（地域の特性や廃棄物問題を踏まえた活動であるかを評価する。）
独創性・先鞭性	独創性・先鞭性（製品、サービス、技術、社会システム等の開発を含む）を評価する。
波及効果、啓発・教育効果	他者の3R活動に与えた効果を評価する。また、機関誌の発行、講演会・研修会の開催等による啓発・教育活動を行っている場合は、その効果を評価する。
その他評価	リデュース・リユース・リサイクルの各分野にわたる活動、上記評価項目や点数配分では評価しきれない優れた項目、内容等があれば、加点する。

令和7年度  
リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰  
推薦一覧

年 月 日

推薦機関名： \_\_\_\_\_

No <sup>*1</sup>	候補者名 (連名による候補の場合は、同じマスに名前を列記してください。)	連名 <sup>*2</sup>	概要書の 様式 <sup>*3</sup>
1			<input type="checkbox"/> 様式1 <input type="checkbox"/> 様式2
2			<input type="checkbox"/> 様式1 <input type="checkbox"/> 様式2
3			<input type="checkbox"/> 様式1 <input type="checkbox"/> 様式2
4			<input type="checkbox"/> 様式1 <input type="checkbox"/> 様式2
5			<input type="checkbox"/> 様式1 <input type="checkbox"/> 様式2
6			<input type="checkbox"/> 様式1 <input type="checkbox"/> 様式2
7			<input type="checkbox"/> 様式1 <input type="checkbox"/> 様式2
8			<input type="checkbox"/> 様式1 <input type="checkbox"/> 様式2
9			<input type="checkbox"/> 様式1 <input type="checkbox"/> 様式2
10			<input type="checkbox"/> 様式1 <input type="checkbox"/> 様式2

- \*1 11件以上の推薦がある場合、一覧を適宜追加し、番号は連番(11～)にて採番してください。  
番号を追加した結果、推薦一覧が複数ページになっても問題ありません。
- \*2 連名候補者を推薦する場合には、連名数を記入ください(2者連名であれば「2」)。  
単独候補者を推薦する場合には、空白のままにしてください。
- \*3 推薦する「候補者の概要書」の該当する様式の□欄にチェックマーク(✓)を付けてください。  
(「様式1(個人・グループ・学校)」又は「様式2(事業所・地方公共団体等)」のいずれかを☑にする。)

推薦件数が1件の場合も、この一覧をご提出ください。



令和7年度  
リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰  
推 薦 書

年 月 日

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会 御中

(推薦機関名)  
(代表役職・氏名)

リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰の候補として下記の者を推薦します。

記

1. 候補者名 (連名による候補の場合は、行を分けて名前を列記してください。)

	(推薦一覧のNo: )
--	-------------

2. 推薦機関における候補の選定方法 (例: 担当部署又は審査会設置による選定等)

[ ]

3. 取組内容の確認方法 (例: 現地調査又は候補者、関係者等のヒアリング等)

[ ]

4. 上記候補者の他の3R関係の表彰への推薦状況

貴機関において、上記候補者を令和7年度に他の3R関係の表彰に推薦している又は推薦を予定している場合には、その表彰について記入してください。

①他の3R関係の表彰への推薦の既済又は予定について、該当するほうに○をしてください。 ある ・ ない	
② (①にて「ある」に○を付けた場合のみ) 下に当該表彰名を記入ください。 枠が足りない場合は、適宜追加してください。	
推薦状況 (該当するほうに○)	表彰名
既済 ・ 予定	
既済 ・ 予定	
既済 ・ 予定	

※次ページに続きます

5. 候補者に関する確認

上記候補者の推薦に当たり、以下の事項を確認し、該当する場合は□欄にチェックマーク(✓)を付けてください。

<推薦について>

○ 候補者に事前の承諾を得ている・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・□

<コンプライアンス等に関して>

○ 候補者に法令違反の事実はない・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・□

○ 反社会的勢力では無い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・□

○ その他受賞者として相応しくない事項はない・・・・・・・・・・・・□

注) これらの項目が全てクリアされている候補者であっても、審査において受賞者として不適当と判断されることがあります。

6. 推薦理由

上記候補者について、推薦機関から見て特筆すべき活動の優れた点、または候補者の概要書を補足する内容等をご記入ください（自由形式、スペースが足りない場合には、枠を適宜拡大してください）。

7. 当推薦についての推薦機関の連絡先等

推薦機関名		
住所		(〒 - )
連絡先*	所属部署	
	氏名	
	電話番号	
	FAX番号	
	Eメール	

\* 「連絡先」は、この推薦の件に関する連絡・問合せ等の窓口となる担当者をご記入してください。

## 候補者の概要書 (個人・グループ・学校用)

### 1. 候補者の名称、連絡先等

①候補者名 <sup>*1</sup> (個人・グループ・学校の名称) <sup>*1</sup> 表彰状はこの欄に記入された名称により作成しますので、正確にご記入ください。名称は、なるべく30字以内にしてください。		フリガナ (半角カナ): -----
②取組の実践場所 (都道府県及び市区町村名を記入)		
③代表者役職・氏名		
④連絡先 (連絡・問合せ等に対応できる担当者 を記入してください。)	住所	(〒 - )
	所属機関等の名称	
	部署・役職	
	氏名	
	電話番号	
	FAX番号	
	Eメール	

連名による応募の場合、もう1者の名称・連絡先等を記入してください。3者以上の連名の場合は、記入欄を適宜追加して、記入ください。

①候補者名 <sup>*1</sup> (個人・グループ・学校の名称) <sup>*1</sup> 表彰状はこの欄に記入された名称により作成しますので、正確にご記入ください。名称は、なるべく30字以内にしてください。		フリガナ (半角カナ): -----
②取組の実践場所 (都道府県及び市区町村名を記入)		
③代表者役職・氏名		
④連絡先 (連絡・問合せ等に対応できる担当者 を記入してください。)	住所	(〒 - )
	所属団体等の名称	
	部署・役職	
	氏名	
	電話番号	
	FAX番号	
	Eメール	

## 2. 3R 活動の実施内容（推薦対象の 3R 活動の内容について記入してください。）

※欄内の説明文（コメント）、記入例は削除し、ご記入ください。

① 活動テーマ名
推薦対象の 3R 活動の内容を端的に表す活動テーマ名を 40 字以内で付けてください。
② 活動概要（表彰結果発表冊子に使用します。非公開の情報は「③活動の詳細内容」にご記入ください。）
活動内容を、写真、図表なども含めて、当枠内に記入してください（MS 明朝、9 ポイント）。 ※ 枠を上げたり、次ページに繰り越したりしないようにお願いします。
次のような項目について内容を記述ください（一例なので、このとおりでなくても問題ありません）。
（1）どのような 3R 活動か
（2）取組のポイント、特長
（3）他の取組に比較して優れているところ、独自なところ、工夫したところ
（4）今後の予定
など
注釈
1. 写真、図表等を活用して、取組の特長などが伝わるようにご記入ください。
2. 当欄の記入内容は、受賞取組をまとめた表彰結果発表冊子に使用いたします。非公開の情報など一般公開できない内容がある場合には、当欄ではなく次ページ「3. 活動の詳細内容（審査用）」にご記入ください。
3. 過去の一部の受賞者等の活動概要（表彰結果発表冊子から抜粋）を 29 ページに添付していますので、ご参照ください。また、それ以外の受賞者の活動概要もリデュース・リユース・リサイクル推進協議会ホームページからダウンロードできますので、ご記入の際の参考になさってください。 ( <a href="https://www.3r-suishinkyogikai.jp/commend/jisseki/">https://www.3r-suishinkyogikai.jp/commend/jisseki/</a> )

※枠はこのまま使用して、上げたり、次ページに繰り越したりしないようにお願いします。



以下の各項目は、全項目が審査対象（未記入の場合は、当該欄の評価点がゼロ）となりますので、必ず全項目③～⑪ご記入ください（6 ページ「審査基準」ご参照）。

（③以降の記入欄の大きさが足りない場合は、枠を適宜拡げてご記入ください。）

③ 活動の詳細内容（審査用。非公開）

3R 活動の具体的な実施内容について、写真・図表等を用いてご記入ください。  
また、実施内容が優れている点を、期間、量、件数など客観的な数値を用いてご記入ください。

ご記入内容は次のような内容です。

- （1）どのような 3R 活動であるかの詳細
- （2）取組のポイント、特長の詳細
- （3）他の取組に比較して優れているところ、独自なところ、工夫したところの詳細
- （4）今後の予定の詳細

など

④ 活動開始時期・継続年数

3R 活動を開始した年月及び継続年数を記入してください。

⑤ 対象品目・量等の実績

3R 活動の対象品目、および過去3年間にリデュース、リユースまたはリサイクルした量の実績を記入してください（重量、体積、数量の単位は適宜変えてください）。なお、リサイクルの場合は、再生した資源の名称や用途（例：再生紙等）を記入してください。

<リデュース>

品目 \ 年度	年度	年度	年度
	t	t	t
	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>
	t	t	t
	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>
(説明・ポイント・補足など記入してください。)			

<リユース>

品目 \ 年度	年度	年度	年度
	t	t	t
	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>
	t	t	t
	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>
(説明・ポイント・補足など記入してください。)			

<リサイクル>

品目 \ 年度	年度	年度	年度
	t	t	t
	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>
	t	t	t
	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>
(説明・ポイント・補足など記入してください。)			

⑥ 活動の効果
<p>3R 活動の実施により得られた効果をできるだけ具体的に記入してください。  「⑤ 対象品目・量等の実績」の付帯効果、波及効果、書ききれない効果、また「⑤ 対象品目・量等の実績」に記入したもの以外の内容があれば、記入してください。</p> <p>【廃棄物の削減効果】</p> <p>【省資源・省エネルギー効果】</p> <p>【環境保全効果】</p> <p>【その他の効果】</p>
⑦ 活動地域の範囲、他の 3R 活動主体や他地域との連携協力、地域密着性
<p>3R 活動の実施地域の範囲を記入してください。</p> <p>他の 3R 活動主体や他地域との連携・協力について具体的に記入してください。</p> <p>地域の特性や廃棄物問題を踏まえた 3R 活動である場合には、その内容を具体的に記入してください。</p>
⑧ 活動の頻度
<p>3R 活動の実施頻度を記入してください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(記入例) びんの回収：週 1 回、古紙の回収：毎日、フリーマーケット開催：月 1 回等</p> </div>

⑨ 独創性・先鞭性

他の取組に比較して優れているところ、進んでいるところ、独自なところを記入してください。

⑩ 啓発普及・教育活動の実施、波及効果

3Rに関する啓発・教育活動の実施内容と成果を具体的に記入してください。

他のグループ・学校等の3R活動に与えた波及効果を具体的に記入してください。

⑪ その他活動の工夫点

上記以外に特に工夫・努力している点、アピールしたい点等を記入してください。

### 3. 過去の受賞歴及び他の表彰制度への応募状況

今回推薦される内容が、下記(A)～(D)に該当する場合、以下の表にご記入ください。

- (A) 過去に、本表彰制度で今回推薦される内容と関連した活動で受賞
- (B) 過去に、本表彰制度で今回推薦される内容とは違うテーマの活動で受賞
- (C) 過去5年間に、他の表彰制度で今回推薦される内容と関連した活動で受賞
- (D) 本年度、他の表彰制度で今回推薦される内容と関連した活動で推薦されている又は応募中（予定も含む）

受賞歴及び 応募状況 (上記(A) ～(D)を 記入)	表彰制度名 (上記(C)、(D)の場合、 記入)	受賞年度 (上記(A)～ (C)の場合、 記入)	受賞した賞の種類 (上記(A)～(C)の場合、 記入)	受賞時のグループ名・学校 名が現在と異なる場合、 当時の名称 (上記(A)～(C)で該当する 場合、記入)

上記で (A)、(C)に○を付けた方は、前回受賞時から進展したポイント（例：活動内容の広がり、活動レベルの向上、3R 実績量の増加、活動地域の拡大等）について、下記の例を参考に具体的にご記入ください。

記入例は削除して、ご記入ください。

	過去（ 年度）受賞時の活動内容	今回推薦を受ける活動内容
3R 活動の内容 (拡大発展した ポイントが分か るように対比)	(記入例) ・資源ごみの集団回収活動 ・生ごみの堆肥化	(記入例) 左記の活動に加え、〇〇年から家具・日用品等の修理・不用品交換 の事務局活動を開始、リサイクルのみならずリユースにも取り組む ようになった。また、資源回収の対象品目も増え、活動の参加者や リサイクル量実績も格段に進展した。
3R 対象品目 について	(記入例) ・集団回収： 古紙、ガラスびん、アルミ缶 ・堆肥化： 生ごみ	(記入例) ・集団回収： 古紙、ガラスびん、アルミ缶、PET ボトル ・堆肥化： 生ごみ ・不用品交換： 家具・衣類・日用品・図書等
3R の実績量 について	(記入例) ・古紙回収量： 500kg/年 ・ガラスびん回収量： 1,200 本/年 ・アルミ缶回収量： 200kg/年 ・生ごみ処理量： 150kg/年 (堆肥生産量： 40kg/年)	(記入例) ・古紙回収量： 1,200kg/年 ・ガラスびん回収量： 2,500 本/年 ・アルミ缶回収量： 800kg/年 ・生ごみ処理量： 500kg/年 (堆肥生産量： 200kg/年) ・不用品交換の成立実績： 120 件/年
活動の実施地域 について	(記入例) 〇〇町内で実施	(記入例) 〇〇町に加え、隣接する××町、△△町に活動範囲を拡大
活動の参加者数 について	(記入例) 〇〇町内の 25 世帯が活動に参加	(記入例) 〇〇町 50 世帯、××町 15 世帯、△△町 20 世帯が活動に参加す るようになった。
活動の質的な 向上について	(記入例) 生ごみ堆肥は、グループメンバーが自宅の庭や家 庭菜園で使用	(記入例) 左記に加え、地元農家に協力を求め、野菜栽培に生ごみ堆肥を使 ってもらうようになった。
上記以外の進展 事項、アピールし たいポイント	(記入例) 他の 3R 活動グループとの情報交流を通じて活動のレベルアップを図るために、〇〇年にホームページとインターネット 掲示板を開設した (アドレス <a href="https://〇〇〇〇.jp">https://〇〇〇〇.jp</a> )。	



## 候補者の概要書 (事業所・地方公共団体等用)

### 1. 候補者の名称、連絡先等

①候補者名 <sup>*1</sup> (事業所・地方公共団体等の名称) *1 表彰状はこの欄に記入された名称により作成しますので、正確にご記入ください。名称は、なるべく30字以内にしてください。	カガナ (半角カナ) : <hr style="border-top: 1px dashed black;"/>														
②取組の実践場所 (都道府県及び市区町村名を記入)															
③代表者役職・氏名															
④連絡先 (連絡・問合せ等に対応できる担当者を記入してください)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; padding: 2px;">住所</td> <td style="padding: 2px;">(〒 - )</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">所属企業・機関名</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">部署・役職</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">氏名</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">電話番号</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">FAX番号</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">Eメール</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> </table>	住所	(〒 - )	所属企業・機関名		部署・役職		氏名		電話番号		FAX番号		Eメール	
住所	(〒 - )														
所属企業・機関名															
部署・役職															
氏名															
電話番号															
FAX番号															
Eメール															

連名による応募の場合、もう1者の名称・連絡先等を記入してください。3者以上の連名の場合は、記入欄を適宜追加して、記入ください。

①候補者名 <sup>*1</sup> (事業所・地方公共団体等の名称) *1 表彰状はこの欄に記入された名称により作成しますので、正確にご記入ください。名称は、なるべく30字以内にしてください。	カガナ (半角カナ) : <hr style="border-top: 1px dashed black;"/>														
②取組の実践場所 (都道府県及び市区町村名を記入)															
③代表者役職・氏名															
④連絡先 (連絡・問合せ等に対応できる担当者を記入してください)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; padding: 2px;">住所</td> <td style="padding: 2px;">(〒 - )</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">所属企業・機関名</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">部署・役職</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">氏名</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">電話番号</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">FAX番号</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">Eメール</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> </table>	住所	(〒 - )	所属企業・機関名		部署・役職		氏名		電話番号		FAX番号		Eメール	
住所	(〒 - )														
所属企業・機関名															
部署・役職															
氏名															
電話番号															
FAX番号															
Eメール															

## 2. 3R 活動の実施内容（推薦対象の 3R 活動の内容について記入してください。）

※欄内の説明文（コメント）、記入例は削除し、ご記入ください。

① 活動テーマ名
推薦対象の 3R 活動の内容を端的に表すテーマ名を 40 字以内で付けてください。
② 活動概要（表彰結果発表冊子に使用します。非公開の情報は「③活動の詳細内容」にご記入ください。）
活動内容を、写真、図表なども含めて、当枠内に記入してください（MS 明朝、9 ポイント）。 ※ 枠を上げたり、次ページに繰り越したりしないようにお願いします。
次のような項目について内容を記述ください（一例なので、このとおりでなくても問題ありません）。
（1）どのような 3R 活動か
（2）取組のポイント、特長
（3）他の取組に比較して優れているところ、独自なところ、工夫したところ
（4）今後の予定
など
注釈
1. 写真、図表等を活用して、取組の特長などが伝わるようにご記入ください。
2. 当欄の記入内容は、受賞取組をまとめた表彰結果発表冊子に使用いたします。非公開の情報など一般公開できない内容がある場合には、当欄ではなく次ページ「3. 活動の詳細内容（審査用）」にご記入ください。
3. 過去の一部の受賞者等の活動概要（表彰結果発表冊子から抜粋）を 29 ページに添付していますので、ご参照ください。また、それ以外の受賞者の活動概要もリデュース・リユース・リサイクル推進協議会ホームページからダウンロードできますので、ご記入の際の参考にしてください。 ( <a href="https://www.3r-suishinkyogikai.jp/commend/jisseki/">https://www.3r-suishinkyogikai.jp/commend/jisseki/</a> )

※枠はこのまま使用して、上げたり、次ページに繰り越したりしないようにお願いします。



以下の各項目は、全項目が審査対象（未記入の場合は、当該欄の評価点がゼロ）となりますので、必ず全項目③～⑪ご記入ください（6 ページ「審査基準」ご参照）。

（③以降の記入欄の大きさが足りない場合は、枠を適宜拡げてご記入ください。）

③ 活動の詳細内容（審査用。非公開）

3R 活動の具体的な実施内容について、写真・図表等を用いてご記入ください。  
また、実施内容が優れている点を、期間、量、件数など客観的な数値を用いてご記入ください。

ご記入内容は次のような内容です。

- （1）どのような 3R 活動であるかの詳細
- （2）取組のポイント、特長の詳細
- （3）他の取組に比較して優れているところ、独自なところ、工夫したところの詳細
- （4）今後の予定の詳細

など

④ 活動開始時期・継続年数

3R活動を開始した年月及び継続年数を記入してください。

⑤ 対象品目・量等の実績

3R活動の対象品目、および過去3年間にリデュース、リユースまたはリサイクルした量の実績を記入してください（重量、体積、数量の単位は適宜変えてください）。なお、リサイクルの場合は、再生した資源の名称や用途（例：再生プラスチック、バイオマス、再生紙、ガス化燃料、セメント原料、高炉還元材利用等）を記入してください。

<リデュース>

年度 品目	年度	年度	年度
	t m <sup>3</sup>	t m <sup>3</sup>	t m <sup>3</sup>
	t m <sup>3</sup>	t m <sup>3</sup>	t m <sup>3</sup>
(説明・ポイント・補足など記入してください。)			

<リユース>

年度 品目	年度	年度	年度
	t m <sup>3</sup>	t m <sup>3</sup>	t m <sup>3</sup>
	t m <sup>3</sup>	t m <sup>3</sup>	t m <sup>3</sup>
(説明・ポイント・補足など記入してください。)			

<リサイクル>

年度 品目	年度	年度	年度
	t m <sup>3</sup>	t m <sup>3</sup>	t m <sup>3</sup>
	t m <sup>3</sup>	t m <sup>3</sup>	t m <sup>3</sup>
(説明・ポイント・補足など記入してください。)			

⑥ 活動による効果
<p>3R 活動の実施により得られた効果をできるだけ具体的に記入してください。</p> <p>「⑤ 対象品目・量等の実績」の付帯効果、波及効果、書ききれない効果、また「⑤ 対象品目・量等の実績」に記入したもの以外の内容があれば、記入してください。</p> <p>【廃棄物の削減効果】</p> <p>【省資源・省エネルギー効果】</p> <p>【環境保全効果】</p> <p>【その他の効果】</p>
⑦ 活動地域の範囲、他の 3R 活動主体や他地域との連携協力、地域密着性
<p>3R 活動の実施地域の範囲を記入してください。</p> <p>他の 3R 活動主体や他地域との連携・協力について具体的に記入してください。</p> <p>地域の特性や廃棄物問題を踏まえた 3R 活動である場合には、その内容を具体的に記入してください。</p>
⑧ 独創性・先鞭性
<p>他の取組に比較して優れているところ、進んでいるところ、独自なところを記入してください。</p>

⑨ 啓発普及・教育活動の実施、波及効果

3Rに関する啓発・教育活動の実施内容と成果を具体的に記入してください。

他の事業所等の3R活動に与えた波及効果を具体的に記入してください。

⑩ その他活動の工夫点

上記以外に特に工夫・努力している点、アピールしたい点等を記入してください。

⑪他の企業等の協力

他の企業等（納入業者・下請け企業・廃棄物処理業者・リサイクル業者等）の協力を得て3R活動を行っている場合、以下を記入してください。

(a) 協力を得ている内容を記入してください。

協力企業の業種	協力を得ている事項
(記入例) 建材メーカー	(記入例) 当工場で発生する廃棄パレットを原料にパーティクルボードを生産している。
(記入例) 資材納入業者	(記入例) 資材の空き容器を引き取ってもらっている。

(b) 協力企業における自社発生物のリサイクル状況の把握及び協力企業に対する支援等を行っている場合は、その内容を記入してください。

(記入例)  
 ・年1回、委託先の現地調査を行い、引き渡した廃棄物が確実に再生利用されたことを確認  
 ・廃液のリサイクルを委託するにあたって、共同で再生技術の研究開発を行った。

### 3. 過去の受賞歴及び他の表彰制度への応募状況

今回推薦される内容が、下記(A)～(D)に該当する場合、以下の表にご記入ください。

- (A) 過去に、本表彰制度で今回推薦される内容と関連した活動で受賞
- (B) 過去に、本表彰制度で今回推薦される内容とは違うテーマの活動で受賞
- (C) 過去5年間に、他の表彰制度で今回推薦される内容と関連した活動で受賞
- (D) 本年度、他の表彰制度で今回推薦される内容と関連した活動で推薦されている又は応募中（予定も含む）

受賞歴及び 応募状況 (上記(A) ～(D)を 記入)	表彰制度名 (上記(C)、(D)の場合、 記入)	受賞年度 (上記(A)～ (C)の場合、 記入)	受賞した賞の種類 (上記(A)～(C)の場合、 記入)	受賞時の会社名・事業所名 が現在と異なる場合、 当時の名称 (上記(A)～(C)で該当する 場合、記入)

上記で (A)、(C)に○を付けた方は、前回受賞時から進展したポイント（例：活動内容の広がり、活動レベルの向上、3R 実績量の増加、活動地域の拡大等）について、下記の例を参考に具体的にご記入ください。

**記入例は削除**して、ご記入ください。

	過去（ 年度）受賞時の活動内容	今回推薦を受ける活動内容
3R 活動の内容 (拡大発展した ポイントが分か るように対比)	(記入例) 工場が発生する各種廃棄物・副産物を極力工場内でリサイクルするとともに、自社内で利用できないものは、リサイクル業者の協力により各種リサイクル製品の原料として有効利用を図った。これにより、最終処分量を5年前の1/5 (発生量の20%) に削減した。	(記入例) 左記の取組に加え、工場内の各工程において製法・工法の改良、歩留り改善、容器・梱包等のリターナブル化等の手段によって、廃棄物・副産物の発生そのものを大幅に削減した。 これにより、最終処分量ゼロを達成した。
3R 対象品目 及び実施方法 について	(記入例) ・塗料かす：樹脂成型品の増量材として再資源化 ・洗浄用有機溶剤：蒸留して低品位溶剤に再生 ・プラスチック端材：熔融ペレット化して売却 ・段ボール箱：古紙回収業者に引き渡しリサイクル ・廃木製パレット：破碎・チップ化して建材ボード原料としてリサイクル	(記入例) ・塗料かす：静電塗装の採用で発生量を90%削減 ・洗浄用有機溶剤：純水洗浄に切替え全廃 ・プラスチック端材：工程内で100%循環利用 ・段ボール箱：通い箱に切替え発生量を95%削減 ・廃木製パレット：長寿命型のプラ製パレットの採用で発生量を60%削減。破損パレットは補修して再使用
活動の実施地域 について	(記入例) 当社〇〇工場、××工場の2事業所で実施	(記入例) 左記に加え、当社□□工場、△△工場及びグループ企業の2工場に技術移転を行い、現在全国6事業所で実施している。
活動の質的な 向上について		(記入例) 前回受賞時の取組内容はリサイクルに限定されていたが、現在は各工程で3R全般にわたる取組を組み合わせ、高い効果をあげることができた。
上記以外の進展 事項、アピール したいポイント	(記入例) 製法・工法の改良による副産物の発生削減技術は特許を取得した。この特許技術は同業他社や他業種の工場にも採用され、各種産業におけるリデュースの推進に寄与している。	

## <参考1>

### 表彰の募集対象となるリデュース・リユース・リサイクル（3R）の取組の例

#### <対象となる取組>

- 自らが3Rを実践する活動であり他の模範となる取組
- 3Rを推進するための他者・地域との連携、他者への3Rの啓発・教育活動など他の模範となる取組
- 3Rを推進するための仕組みづくり、3Rを促進する製品の開発・普及などの活動

※ リデュース、リユース、リサイクルのいずれか1つの取組も対象です。

また、これらの2つの組み合わせ、3つ全ての取組も対象です。

※ なお、他に比較して優れたところ、進んだところ、独自なところがあれば既に比較的普及している3Rの取組であっても対象となります。

具体的な取組事例は次のとおりです。

#### 1. リデュース（Reduce＝発生抑制）

製品をつくる時に使う資源の量を少なくすることや廃棄物の発生を少なくすること。

耐久性の高い製品の提供や製品寿命延長のためのメンテナンス体制の工夫なども含まれます。

（取組の例）

##### <個人・グループ・学校>

- マイバックを持って無駄な包装は断る。
- 詰め替え容器に入った製品や簡易包装の製品を選ぶ。
- 耐久消費材は手入れや修理をしながら長く大切に使う。
- 利用頻度の少ないものは、レンタルやシェアリングシステムを利用する。
- 耐久性の高い製品や省資源化設計の製品を選ぶ。

##### <事業所・地方公共団体等>

- 製品を設計する時に、製品ができるだけ長く使えるように工夫をする（耐久性、修理性等）。
- 製品を設計する時に、製品ができるだけ少ない材料、部品等で構成されるように工夫する（省資源化）。
- 製品をつくる時に、原材料を無駄なく効率的に使うように工夫する。
- 修理や点検等のアフターサービスを充実することにより、製品の長期使用促進に努める。
- 簡易梱包、簡易包装、詰め替え容器、通い箱等の利用、普及に努める。
- 機械器具等の手入れ方法や修理方法を工夫して長期使用に努める。
- 利用頻度の少ないものをシェアする仕組み、不用品を有効に活用する仕組みをつくる。
- 耐久性の高い製品や省資源化設計の製品を選ぶ。

## 2. リユース (Reuse=再使用)

使用済製品やその部品等を繰り返し使用すること。

その実現を可能とする製品の提供、修理・診断技術の開発、リマニュファクチャリングなども含まれます。

(取組の例)

<個人・グループ・学校>

- リターナブル容器に入った製品を選び、使い終わった時にはリユース回収に出す。
- フリーマーケットやガレージセール等を開催し、不用品の再使用に努める。

<事業所・地方公共団体等>

- 製品を設計する時に、本体や部品のリユースがしやすいように工夫をする。
- 使用済製品を回収して本体や部品を再生し、再び新品同様の製品を作り出す。
- 使用済製品、部品、容器を回収し、再使用する。

## 3. リサイクル (Recycle=再資源化)

廃棄物等を原材料やエネルギー源として有効利用すること。

その実現を可能とする製品設計、使用済製品の回収、リサイクル技術・装置の開発なども含まれます。

(取組の例)

<個人・グループ・学校>

- 資源ごみの分別回収に協力する。
- 資源ごみの効率的な分別回収を広める。
- リサイクル製品を積極的に利用する。

<事業所・地方公共団体等>

- 製品を設計する時に、使用後のリサイクルがしやすいように工夫をする。
- 製品をつくる時に、できるだけリサイクル原材料を使う。
- 使用済みとなった自社製品の回収・リサイクルに努める。
- 発生した副産物・使用済製品を効率的にリサイクルする (仕組みづくりを含む)。

### 注釈

町の美化、公衆衛生の向上、公害防止 (大気、水質等)、地球温暖化防止などは、資源の有効利用を目的とした3R活動の付随的な効果としては評価の対象ですが、これらが主たる取組の場合は本表彰の対象外です。





<参考2>

## 過去に受賞した活動のご紹介

ご参考までに、昨年の受賞者及び過去の表彰にて内閣総理大臣賞を受賞した活動概要を紹介いたします。

令和6年度の受賞者一覧	P. 30～31
内閣総理大臣賞の活動概要	令和6年度 1件 (P. 32～33)
	令和5年度 1件 (P. 34～35)
	令和4年度 1件 (P. 36～37)
	令和3年度 1件 (P. 38～39)
	令和2年度 2件 (P. 40～43)

なお、他の賞も含めた過去(\*)の受賞活動概要をまとめたPDF(結果発表冊子)を協議会のWebページ「受賞者一覧」にて公開しておりますので、併せてご参照ください。

\* 掲載しているのは、平成14年度から(平成13年度は受賞者一覧のみ)

<受賞者一覧>

協議会ホームページ トップ > 「3R推進功労者等表彰」 > 「受賞者一覧」

<https://www.3r-suishinkyogikai.jp/commend/jisseki/>



上記URLは、右の2次元コードからもアクセスできます

## 令和6年度の受賞者一覧

### 内閣総理大臣賞（1件）

大成建設株式会社 サステナビリティ経営推進本部 カーボンニュートラル推進部  
日本通運株式会社 資源循環営業部  
「建設副産物巡回回収システム」の構築による建材サーキュラーエコノミーの実現」

### 文部科学大臣賞（1件）

#### 「個人・グループ・学校」分野（1件）

SPLEA ICVs  
「すべての子どもに行き届いた教育を ～ 家に眠るリユース品をカンボジアの子どもたちへ～」

### 厚生労働大臣賞（1件）

#### 「事業所・地方公共団体等」分野（1件）

武田薬品工業株式会社 光工場 EHS室  
「国内初のPTP包装廃材のマテリアルリサイクルで廃棄物の資源循環（再資源化）を推進」

### 経済産業大臣賞（2件）

#### 「事業所・地方公共団体等」分野（2件）

アマゾンジャパン合同会社  
「難再生古紙リサイクル及び廃プラスチックリサイクルのクローズドループ構築」

キヤノン株式会社  
キヤノンエコロジーインダストリー株式会社  
「複合機再生事業の拡大 ～環境性能と高品質と低価格への取り組み～」

### 国土交通大臣賞（2件）

#### 「事業所・地方公共団体等」分野（2件）

戸田建設株式会社 関東支店 常総 IC 周辺地区土地区画整理事業 2・4 街区物流施設新築工事  
「廃プラスチック対策の実践」

大鉄工業株式会社 大阪支店 ホーム柵推進部  
「鉄道ホーム柵整備事業の建設工事における環境負荷低減活動」

### 環境大臣賞（1件）

#### 「事業所・地方公共団体等」分野（1件）

株式会社ジモティー  
世田谷区  
「2年半で69,000品、349トン、リユース率97%を超える不用品をリユースする官民連携リユース事業の構築と事業を活用した普及啓発 ～地域住民・地域企業を待ちこんだ多様な啓発活動～」

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞（6件） ※ 受賞者名のみ

男山株式会社
鹿島建設株式会社 関西支店 龍谷大学深草工事事務所
清水建設株式会社 関西支店 (仮称) 医誠会国際総合病院新築工事建設所
株式会社竹中工務店 大阪本店 GLP ALFALINK 茨木 I プロジェクト
株式会社長谷工コーポレーション (仮称) 京急電鉄川崎区本町新築工事
株式会社エーペックスジャパン

内閣総理大臣賞

受賞者名

大成建設株式会社  
 サステナビリティ経営推進本部  
 カーボンニュートラル推進部  
 日本通運株式会社 資源循環営業部

取組の実践場所

東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、など

受賞テーマ

「建設副産物巡回回収システム」の構築による建材サーキュラーエコノミーの実現

建設現場から排出される廃棄物（建設副産物）の多くが産廃処理業者にて中間処理されるが、特に仕上げ工事から発生する副産物は多種多様であるため混合廃棄物になり易く、汚れの付着や選別の困難さがマテリアルリサイクルの阻害要因になっている。

この問題を解決するためには品目を厳選して精度高く分別し、品目ごとに再資源化可能な施設に搬出することが重要になる。しかし個々の現場で対応すると搬出先の再資源化施設ごとに搬出車両の手配が必要となり業務が煩雑になる上、少量でも運搬費が高額になり車両運行に伴うCO<sub>2</sub>排出量も増加するという課題があった。

受賞者は、この課題を解決するために、複数現場を同一車両で巡回回収し、回収拠点で積替えを行い、品目ごとの再資源化施設にまとめて二次輸送できる巡回回収システムを構築し、2014年より有価物を対象に導入を開始した。

2017年からは大半が埋立て処理されている不燃系の建材端材を対象品目とし、メーカーが製品原料等に再資源化することができる「広域認定制度」を利用した建材端材のサーキュラーエコノミーを実現した。

更に2023年度より日本通運株式会社との協業により、同業ゼネコン他社の参加による再資源化量の拡大と荷量確保による安定運用体制を確立し、個社としてだけでなく、同システムの建設業界全体への普及を進めている。



巡回回収システム概要図

同システムの特徴は次のとおりである。

- ・広域認定制度の利用により埋立処分されている不燃系の建材端材（グラスウール、岩綿吸音板等）の再資源化を実現する。
- ・複数現場の複数品目を同一車両で巡回回収して積替拠点で集積し、建材メーカーごとに集約して大型車両で二次運搬を実施する。
- ・移動式統一回収容器（NRBOX：日本通運）の採用により現場でのハンドリング性を高め、容器の個体管理を実施する。
- ・積替拠点を複数設けて回収エリアを拡大し、製品納品車の帰り便を利用することで動脈・静脈物流のマッチングを実施する。



石膏ボード



グラスウール



床材



岩綿吸音板



NRBOX



写真1 導入EVトラック①



写真2 導入EVトラック②



写真3 副産物回収状況

また、同システム導入のメリットは次のとおりである。

- ・従来、処理困難であった不燃系建材端材の水平リサイクル（製造工場で製品の原料としてリサイクル）を実現した。
- ・複数品目、複数現場の共同回収による運搬効率の向上により運搬コストとCO<sub>2</sub>排出量が大きく低減した。
- ・NRBOXの採用により現場内作業、容器管理の効率化と容器内の空隙減少による端材の積載率が向上した。
- ・動脈・静脈物流のマッチングにより運搬車両を削減し運搬効率が向上した。  
一事業者だけでなく同業他社への普及が可能となり、建設業界全体の建材サーキュラーエコノミー推進に寄与している。

受賞者は、巡回回収エリアの拡大、対応品目やメーカーの追加、モーダルシフトによる遠距離運搬など、更なるシステムの充実を図っており、業界全体に波及していくことが期待できる。

## 内閣総理大臣賞(1件)

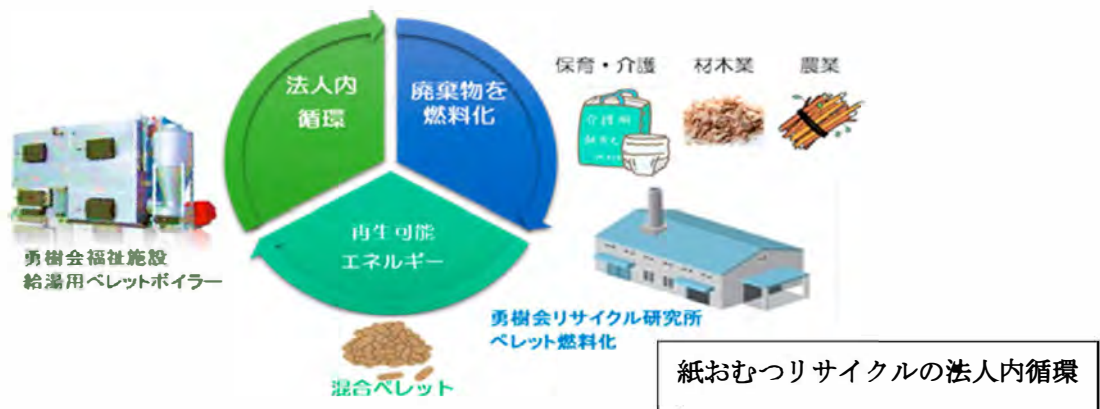
<b>内閣総理大臣賞</b> <small>「事業所・地方公共団体等」分野</small>	受賞者名 <b>社会福祉法人勇樹会</b>
	取組の実践場所 <b>新潟県新潟市</b>
	受賞テーマ <b>使用済み紙おむつの再資源化を通じて地域における廃棄物の削減と再資源化に携わっています</b>

受賞者は、運営する施設から発生する使用済み紙おむつを再資源化してペレット燃料を製造し、施設に設置している給湯用ボイラーの燃料として利用している。一つの法人内で、再資源化から利用までの一連の処理を実現しているのは、全国で唯一の取り組みであると思われる。

使用済み紙おむつは水分を含んで重く、使用前の約3倍も重くなっている。このため、一般的な廃棄物より運搬・焼却時の労力、コスト、排出されるCO<sub>2</sub>量が多くなる。一方で、乳幼児だけでなく、高齢化社会に伴った大人用紙おむつの需要が増え続ける中、紙おむつの再資源化は今後必要不可欠であると考えている。

このような中で、同法人では、社会貢献の観点から「勇樹会リサイクル研究所」を設置し、運営する施設から発生する使用済み紙おむつの再資源化に自ら取り組んできた。実験を重ねて改良し、これまでに約110tの使用済み紙おむつを再資源化し、廃棄物の削減及び環境負荷の低減に携わっている。

また、地域の事業者から、従来処分されていた木くずや剪定枝を受け入れ、使用済み紙おむつに混合してペレット燃料に再資源化するなど、地域の廃棄物削減や課題の同時解決にも取り組んでいる。



同法人のこれまでの取り組みは次のとおりである。

平成28年（2016年）

- ・新潟市東処理センター内の空き施設を紙おむつリサイクル施設に改修し、紙おむつリサイクル機械及びペレット製造機・ペレットボイラーの試運転を開始する
- ・平成28年度使用済み紙おむつ燃料化実証実験と共に紙おむつリサイクルを開始する

平成29年（2017年）

- ・平成29年度使用済み紙おむつ・木くず混合燃料化実証実験を新潟大学と共同で実施する  
（平成29年度地域循環圏・エコタウン低炭素化促進事業 環境省）
- ・木くずのリサイクルを開始する
- ・新潟市南区と果樹剪定枝の有効利用について意見交換を行う
- ・「使用済み紙おむつの再資源化を考えるシンポジウム」を新潟市と佐渡市で開催  
（主催：勇樹会、共催：一般社団法人NIPPON紙おむつリサイクル推進協会、  
後援：環境省関東地方環境事務所・新潟市・佐渡市）

平成30年（2018年）

- ・十日町市からの依頼で紙おむつと木くずのペレット成型実験を実施
- ・十日町市の要請で十日町市環境部と使用済み紙おむつ燃料化事業についての意見交換を行う

令和元年（2019年）

- ・新潟みらい農業協同組合及び新潟大学と共同研究契約を締結して「果樹剪定枝・紙おむつ・木くず」から製造する混合ペレットによる熱利用の実証実験を実施する  
（令和元年度新潟県新エネルギー産業参入・育成促進事業補助金 新潟県）
- ・果樹剪定枝の混合を開始する

令和2年（2020年）

- ・使用済み紙おむつ燃料化事業の事業化に向けた混合ペレットボイラーの開発と事業化レベルの長期間の燃焼実験を実施する  
（令和2年度新潟県新エネルギー産業参入・育成促進事業補助金 新潟県）


令和3年（2021年）

- ・令和3年度 新潟県再生可能エネルギー設備導入促進事業補助金を利用してバイオマスペレットボイラーを特別養護老人ホーム「柳都の杜」に設置する
- ・使用済み紙おむつと木くず（季節により剪定枝も混合）を混合して製造したペレットを、給湯用ボイラーの燃料として利用することを開始する



今後は、佐渡市にて紙おむつリサイクルを実現するため、令和6年、佐渡市に建設する同法人の特別養護老人ホームの給湯用ボイラーとして、紙おむつペレットボイラーを設置する予定である。

## 内閣総理大臣賞(1件)

	受賞者名
	カットショップシヨーン
	取組の実践場所 青森県青森市
	受賞テーマ 「いつまでも 人も 地球も 美しく」 永続する楽しい日常をつくる道を美容室からお客様へ

受賞者は、個人の小規模経営ながらも長年にわたり、スタッフ全員それぞれが自ら考えて工夫する3R活動、さらにはSDGsや低炭素社会にもつながる環境全般に配慮した活動を行っている。

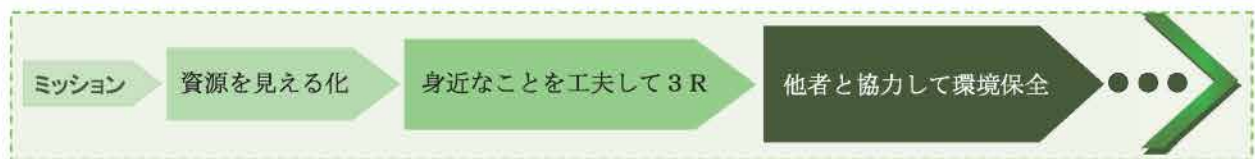
同店は1997年3月のオープン時からミッション「いつまでも 人も 地球も 美しく」を掲げ、以来25年間、少しずつではあるが3R活動や環境保全活動を増やしてきた。オープン当時はまだ、環境問題が身近なこととして捉えられていない頃であり、同店のミッションも、どこまで顧客に理解してもらえるのか、わからない状況であった。

その中で、誰か1人が頑張るのではなく、スタッフ全員が最初のうちはよく分からなくても行動できるようにと、美容室において変動費（売り上げに応じて変動する費用）にあたる電気や水、灯油の使用量を売上1万円当たりの使用量でグラフ化して提示し、「資源を見える化」することから活動を始めた。

2008年には「もったいないプロジェクト」を設置し、プロジェクトリーダーを中心としてスタッフ全員で業務そのものがどこからでも3R活動につながることを念頭に置いて活動に取り組んでいる。

オープン時から現在に至るまで、スタッフ自らが技術工程の見直しを含めた3R推進活動を続けているのは、拙速に活動を拡大するのではなく、まずは目に見える形で現状を把握して「手元にある身近なものを使って工夫すれば廃棄物を減らせる」と考える段階、そのうえで「エネルギーに頼らなくてもいい部分は私たちの工夫で、頼らざるを得ない部分は自然エネルギーで」等の他組織の力を借りてミッションを実現する段階と、緩やかに活動をひろげている点大きい。

また、2007年7月に創刊したオリジナルフリーペーパーには、「エコdeシヨーン」と称するコーナーを設けて、環境保全関連の活動報告やコラムを掲載してきた。2022年3月には第78号を発行し（現在も継続中）、来店した顧客に手渡している。同店がエコロジカルな視点で営業をしていることを理解してもらい、顧客にも協力してもらい、3Rはもとより環境保全全般に関心を持って日常を過ごしてもらえるようにと、記事の内容や組みあわせなどに工夫を重ねている。



具体的な活動の例としては、以下のことなどを行っている。

### 1. リデュース

- ・パーマ液のアプリケーション（スポイト）に薬剤使用量の目安メモリを書き入れ、ムダ使用による廃棄削減に努めている。
- ・2015年6月から、ヘアカラー塗布後のカラー剤残量ゼロを目指し、使用カップの残量を毎回計測して、スタッフの意識改革を促すことによる残量削減に努めている。
- ・コームを使って、地肌に薬剤をつけないように染める塗布テクニックをアルカリカラーにも取り入れることにより、無駄な薬剤を減らし、洗い流し時の薬剤廃棄減量を行っている。
- ・ヘアカラー施術では、アルミホイルを用いて行うローライト塗布技術を、再利用可能なカラーパレットを使用する技術に改良、仕上がりの改善とともに廃棄アルミホイルの減量につなげている。



- ・ゆるい粘性のストレート剤は通常、カップに出して刷毛で塗布するが、使いすぎや出しすぎを避けるためスポイトを使用し、ピンポイントに塗布することで残量ゼロを実現している。
- ・シャンプー台では、有害物質を取り除き環境浄化作用がある設備を設置し、機能水を使用することで排水時の環境負荷を削減している。
- ・薬剤のついたタオルのつけ置き洗いの徹底など洗濯方法の改善や、施術後にカップに残った薬剤を拭き取ってから洗うなど、極力汚水を減らす節水管理を徹底している。
- ・プラスチック使用減量のため容器包装簡素化の可能な商品を顧客に奨励し、詰替え、量り売り販売を実施、ボトルの再利用を薦めている（2007年頃から実施。）
- ・店内で使用する材料は、可能な限り詰替商品を使用している。
- ・店販用の包装材を利用した紙袋にするとともに、一部は顧客の理解を得て店販袋（物販用の袋）なしで商品の引渡しも行っている。
- ・店内散髪掃除用のほうきは、ラバー箒（古くなったらラバー部分のみの交換可能）を使用している。
- ・カルテ記入や事務に使うペンは、替え芯を使用している。
- ・配送の脱ダンボール化に取り組んでいる美容ディーラーには、集荷BOXでの積み替えで配送してもらっている。
- ・店内の床清掃時に使用するワックス及び剥離剤は、環境負荷を低減（ごみの減容化）する低炭素型容器を採用した製品を使用している。（燃焼の際の有害ガスの発生がなく、ダンボールはラベルをはがさずリサイクル可能なもの）
- ・ミーティング資料、販売促進企画検討資料、人材教育用の提出資料等は印刷せずにPDF・JPG化してスタッフ全員で使用しているビジネスチャット上で閲覧検討することにより、紙の使用量を削減している。
- ・電子化されて受領した領収書などの会計書類は、PDF化して電子保存している。
- ・2021年11月～2022年1月の期間限定の試みではあったが、期間中、年末年始の福袋を購入する顧客にはオリジナルのエコバッグを作成して店販袋にして配り、エコバッグ持参の習慣化を呼び掛けた。

## 2. リユース

- ・パーマ施術時に使用するワインディングペーパーは、リユース可能なものを使用している。
- ・古くなった施術用タオルは、雑巾として再使用している。
- ・使用しなくなった紙の裏をメモ用紙として再使用している。
- ・施術中に顧客が使ったマスクは、使用后、古雑誌を再使用してつくった紙のケースに一人ずつ入れてもらい、廃棄処分している。
- ・脱プラスチック対策にメーカーが材料配送に採用している緩衝材の紙も、顧客の使用済みマスクの廃棄用ケースにしておいて、他にメモ用紙、カラーカップの拭き取り用紙に再使用している。

2022年は、ヘアカラーチューブリサイクルの取り組みを始めていて、使用済みヘアカラーチューブリサイクル・ごみ削減・環境保全活動推進を目指している企業に対し、使用済みヘアカラー薬剤チューブの返却を予定している。手続きの完了後、引き取りの規定量が確保され次第、出荷することとしている。



- 写真左：目安メモリを書き入れたアプリケーション
- 写真中：再利用可能なカラーパレット
- 写真右：フリーペーパーの抜粋

上記以外にも、ヘアドネーションへの協力、自然エネルギー100%の使用など、3Rだけでなく、人と環境全般に配慮した様々な活動を続けている。

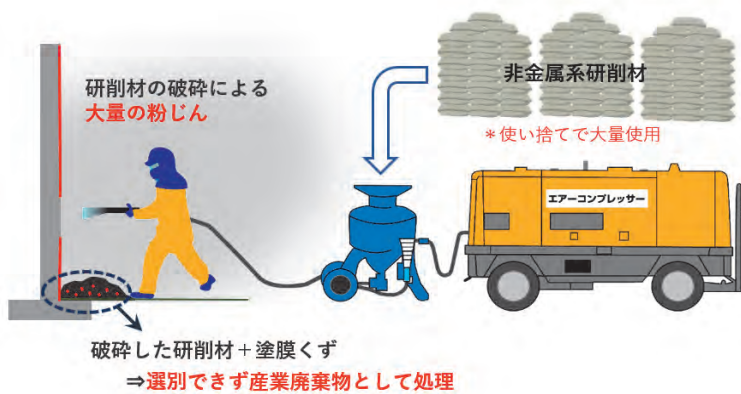
## 内閣総理大臣賞(1件)

<b>内閣総理大臣賞</b> <small>「事業所・地方公共団体等」分野</small>	受賞者名
	取組の実践場所
	受賞テーマ
<b>ヤマダイインフラテクノス株式会社</b>	
<b>愛知県、三重県、岐阜県 他 25 都道府県</b>	
<b>研削材を何度も再使用し、産業廃棄物の発生を最小限に抑制する 環境配慮型ブラスト工法</b>	
<p>鋼橋の長寿命化に不可欠な塗装塗替え工事は、その工程において劣化した塗装や錆を剥がし、新しい塗装の下地を作る「ブラスト処理」を行う。この処理は、研削材と呼ばれる小さな硬い粒を圧縮空気により噴射して塗装を剥がし、同時に鋼材表面に適度な粗さを付けて塗装の密着性を上げるものである。</p> <p>受賞者の活動は、研削材を何度も再使用（リユース）することで、この工程において発生する産業廃棄物を最小限に発生抑制（リデュース）するものである。</p> <p>現場でブラスト処理を行う際には、橋梁製作時に工場で行われていた製品ブラスト処理に使用する金属系研削材は使用されず、軽くて錆びない鉄構スラグに代表される非金属系研削材が使用されてきた（以下「従来ブラスト工法」とする）。</p> <p>しかし、この従来ブラスト工法には大きな課題があった。非金属系研削材は硬いが非常にもろいため、1回の使用で破碎してしまい、塗膜くずとともにすべて産業廃棄物として処理していた。その量は、塗装を1㎡剥がすと平均的に0.8kg～1kg/㎡程度の塗膜くずになるのに対し、研削材の標準使用量は40kg/㎡以上となり、これらが使用後にすべて処理対象となる。つまり、処理目的物に対して40～50倍の産業廃棄物を発生させていた。また、破碎の際には大量の粉じん発生も伴い、作業環境も悪化していた。</p> <p>一方で、金属系研削材は、ほとんど粉碎しないが、現場で敬遠される次のような課題があった。</p> <p>①湿度によって錆びたり固結したりする ②重くて扱いにくい ③高価である</p> <p>同社は「ゴミを減らして世界を変える」を合言葉に、現場で金属系研削材が敬遠される3つの課題を次のように解決して使用可能にし、かつ産業廃棄物の発生を最小限に抑制した「循環式エコクリーンブラスト工法」を開発した。</p> <p>&lt;3つの課題の解決&gt;</p> <p>①金属系研削材の発錆対策 圧縮空気を発生させるコンプレッサにエアドライヤを連動させ、乾燥圧縮空気による噴射システムを導入した。これによってスムーズな金属系研削材の噴射が可能となった。</p> <p>②重量について 金属系研削材は非金属系研削材に比べ2.5～3倍の重量があり、使用した金属系研削材を回収するためには強力な真空回収装置が必要となる。また回収装置から排気する空気を清浄化することも必要だった。これらを解決したうえで、さらに金属系研削材の重さを逆にとり、塗膜くずとの重量差を利用した風選式セパレータを開発し、金属系研削材と塗膜くずの選別に成功した。重い研削材は再噴射するためのホッパータンクに落ち、軽い塗膜くず等はダスト回収装置に回収されるという仕組みである。このシステムにより選別された金属系研削材は、何度も再使用が可能になった。</p> <p>また、産業廃棄物の抑制量は、ブラスト処理面積1,000㎡当たり40tにもなるので、二酸化炭素排出の大幅抑制にもつながる（1/40～1/50に削減）。</p>	

③金属系研削材の単価について

金属系研削材を何度も再使用することで解決した。研削材を何度も繰り返し使用することで、処理目的物に対し40～50倍発生する産業廃棄物を削減して、その結果、産業廃棄物の処理に使用されている費用の大幅削減にもつながった。

従来ブラスト工法

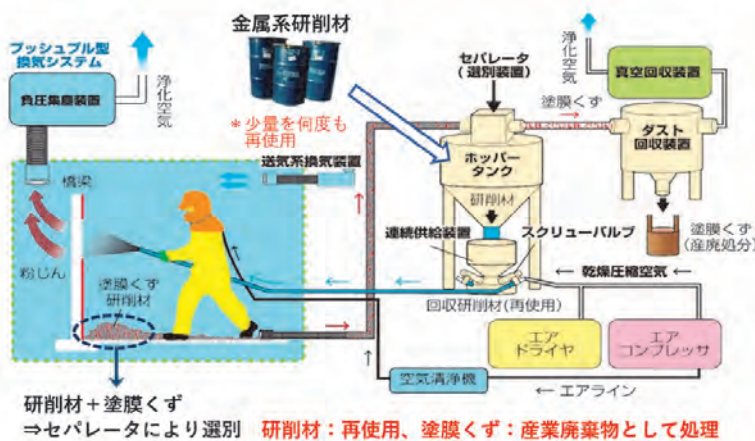


1,000㎡当たり産業廃棄物排出量

塗膜くず・錆等  
0.8～1t程度

使用済み研削材  
約40t

循環式エコクリーンブラスト工法



1,000㎡当たり産業廃棄物排出量

塗膜くず・錆等  
0.8～1t程度

研削材の再使用により、  
産業廃棄物 約40tの排出抑制

橋は、高度経済成長期にその多くが建設され、日本の経済の発展に貢献し続けているが、半世紀近くが経過した現在では、その老朽化が社会問題になっている。鋼橋も例外ではなく、今後も多くの橋をブラスト処理することが必要である。

同社は、循環型社会の持続のため「循環式エコクリーンブラスト工法」の普及に努め、脱炭素社会の実現に向けて、これからも貢献できるように努めていこうとしている。

# RRR 内閣総理大臣賞(2件)

Reduce Reuse Recycle

<b>内閣総理大臣賞</b> 「個人・グループ・学校」分野	受賞者名 <b>深浦町立岩崎中学校</b>
	取組の実践場所 <b>青森県西津軽郡深浦町</b>
	受賞テーマ <b>世界遺産白神山地の麓で、環境教育と地域貢献のサイクル形成を目指す リサイクル活動</b>

受賞者は過疎化、少子高齢化が課題となっている青森県深浦町において、30年以上にわたり保護者や様々な地域主体と共にリサイクル活動を継続、浸透させ、地域のごみの減量化や3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進に貢献してきた。近年では、リサイクル活動で得た収益金の一部を、高齢化・担い手不足等により衰退していた十二湖太鼓や神楽などの郷土芸能の承継に役立てるだけでなく、その成果を学校行事、十二湖山開き、観光客の出迎え演奏などで披露し、郷土芸能の振興にも努めている。さらに同収益金の一部は、地域の高齢者を文化祭に招待し、交流することにも役立て、高齢者福祉の増進にも努めている。

また、同校は東側に世界遺産白神山地、西側には日本海が位置する自然環境に恵まれた地域であり、その特色を活かし、白神山地のブナ林の保全・調査、小学校や地域と合同で海岸清掃など、地域の環境保全にも努めている。

これらの活動を通じ、同校は生徒の環境配慮行動の育成だけでなく、地域への愛着や参加意識を地域と共に育みながら、過疎化、少子高齢化が進行する地域における持続可能な地域づくりに貢献している。

## 1. 資源ごみの回収

同校と保護者が中心となり、1989年にスタートした資源ごみの回収活動は次第に地域に定着し、30年間以上継続している。年2回の「リサイクル資源ごみ（古新聞・雑誌類・段ボール箱・空きビン等）回収日」には、学校・保護者・地域等が一体となり、学区内の各家庭で保管した資源ごみを回収している（写真1）。学区内の各家庭への周知・協力依頼は、町役場の協力を得てチラシを配布し、急な連絡が必要の際には防災無線で伝達している。回収日には、地域の方が各家庭の玄関前にごみ出しし、回収しやすいように協力してくれる。中には「子どもたちのために」、「子ども達が声を掛けてくれて嬉しい」と倉庫に半年間古紙を保管し、楽しみに待つ高齢者も多くいる。高齢者のごみ出しが困難な場合は、生徒が声をかけながら支援している。高齢者とふれあい、感謝されることで生徒の自尊心や郷土への愛着が生まれ、地域とのつながりを深めている。

さらに、随時回収出来るように、学校の玄関前に古紙回収ボックスを設置している（写真2）。保護者や地域の人達がボックスに持ち込む際には、教員が鍵の開け閉めを担当し、ボックスにある程度たまると生徒がストックヤード（廃校校舎）に運んでいる（写真3）。



写真1 地域全体での資源ごみ回収  
（年2回）



写真2 学校玄関前に設置している  
古紙回収ボックス（随時受付）



写真3 廃校になった校舎を  
ストックヤードとして活用

リサイクル活動で得た収益金の一部は、高齢化や人口減少の進行で衰退していた郷土芸能「十二湖太鼓」や「神楽」を生徒が承継するための活動資金（太鼓の修繕、衣装や備品の購入等）に役立てている。生徒達は地域の人達から演奏を学び、その成果を学校の文化祭（写真4）、十二湖山開きの式典などの地域イベントや、観光シーズンに観光客を出迎えるために駅で演奏し（写真5）、地域内外に向けて郷土の伝統や魅力を発信している。

地域や観光客等から活動が評価されることで、生徒は自己肯定感を高め、郷土へ愛着を感じる気持ちを高めている。

その気持ちが次のリサイクル活動や地域貢献へ向かう原動力に繋がっている。



写真4 文化祭で地域の方を招いた神楽



写真5 観光客に向けて演奏する十二湖太鼓

さらに、リサイクルで得た収益金の一部は、活動を推進するために校門前に設置した看板や、文化祭へ高齢者を招待し、交流することにも役立っている。



写真6 活動を推進するための看板



写真7 文化祭へ的高齢者の招待

近年では近隣の小・中学校にて、同校の活動に協力したり、独自にリサイクル活動を始めたりするところもあり、周辺地域のごみ減量化・3R活動の推進にも良い影響を与えている。

同校は2年後に他の中学校と統合を予定しており、活動の継続は現在検討中である。

## 2. 文化祭のバザー

同校では、2019年より文化祭でバザーを実施し、地域のリユースを推進している。生徒会主体で計画、運用し、各家庭から約200点の様々な物品の提供を受け販売した。バザーで得た収益金は生徒会の活動資金だけでなく、深浦町社会福祉協議会へ寄附し、地域の福祉活動の増進に役立っている。



写真8 文化祭のバザー

## 3. 自然環境保護の取り組み（ブナ林の調査、海岸の清掃活動など）

同校は月に1回、地域の専門家の指導を受けながら、世界遺産「白神山地」のブナ林の保全・調査活動にも取り組んでいる。さらに年1回、小学校や地域と合同で海岸清掃を実施するなど、地域の環境保全にも努めている。



写真9 白神山地のブナ林調査



写真10 小中学校・地域と海岸清掃

<b>内閣総理大臣賞</b> <small>「事業所・地方公共団体等」分野</small>	受賞者名
	<b>北海道鹿追町</b>
	取組の実践場所 <b>北海道鹿追町</b>
	受賞テーマ <b>ミルクだけじゃない！！ バイオガスプラントによる家畜排せつ物等廃棄物系バイオマスの有効活用</b>

受賞者の所在地は、北海道の南東部に位置し、西は日高山脈連峰、北は大雪山国立公園を背景に山と緑に囲まれた自然豊かな純農村地帯である。同町の基幹産業は農業であり、令和元年度の農業生産額は約214億円と北海道内でも有数の農業地帯である。特に酪農は1戸当たりの飼養頭数が年々増加しており、それに伴って家畜排せつ物の適正処理が課題となっていた。従前より家畜排せつ物は堆肥化等により農地肥料として利用されていたが、排せつ物量の増加に伴い、未熟なまま施用されることによって、散布時期になると悪臭が数日間続き、市街地住民さらには同町を訪れる観光客からの苦情が多く寄せられていた。

このようなことから同町では、家畜排せつ物の適正処理はもとより有効なバイオマス資源として活用することを目的に市街地周辺酪農家14戸を対象に集中型バイオガスプラントを核とする「鹿追町環境保全センター」を整備し、平成19年10月から供用開始した。

同センターでは、家畜排せつ物をはじめ、家庭から排出される生ごみ、さらには下水処理場から排出される下水汚泥も併せてバイオマス資源として活用している。バイオガスプラントでは、家畜排せつ物等の廃棄物系バイオマスのメタン発酵を行っている。メタン発酵後の原料は、液肥として利用されており、飼料作物のほかビート、小麦、豆などの耕種作物の肥料として全量利用されている。

また、メタン発酵過程中に生産されるバイオガスは主に発電機の燃料として利用し、発電された電力の一部はセンター内の電力を賄い、余剰分はFIT制度により売電を行っている。



鹿追町環境保全センター全景



家畜排せつ物等収集車両



バイオガス専焼発電機



円柱型メタン発酵槽



液肥散布トラクター・タンカー

発電時に発生した熱エネルギーは、発酵槽加温用として利用していたが、余剰分は利用先がなく、当初は廃熱処理していた。この余剰熱の有効活用を図るため、新たな取組みとして平成26年度からチョウザメの飼育、マンゴー栽培などの熱エネルギーとして利活用を図っている。

チョウザメの飼育は、余剰熱を利用して水温度を19℃まで加温した水槽で行っている。この水温がチョウザメの体長が増加させるのに適した温度であり、現在7,000匹のチョウザメを飼育している。

マンゴー栽培は、暖かい地域では夏に端境期を迎えて収穫しているが、ここでは温度調整を行い、普通は出回ることのない12月に収穫できるようにしている。夏は、冬期間の降雪を雪氷エネルギーとして利用してハウス内を冷却し、その後、開花に合わせて発電機の熱エネルギーで加温している。12月頃には夏の気温となるように調整して収穫するが、12月に収穫される国内マンゴーという希少性から高価格で取引される。特に糖度の高いものは高級ブランド果物として、東京の百貨店で販売されている。

現在、新規作物として、サツマイモの試験栽培に取り組んでいる。サツマイモの貯蔵温度は13℃～15℃であり、冬期間氷点下となる同町においては貯蔵庫内を加温する必要があることから余剰熱を利用し、貯蔵を行っている。同町では新たな特産品として干しイモの加工を行っており、道の駅等で販売され高評価を得ている。

メタン発酵後の原料は液肥として利用されており、悪臭が著しく減少するとともに有機質肥料として、全量利用されている。液肥はほとんどが農業者の農地に利用されているが、一部は家庭園芸用肥料として一般販売しており、非常に高評価である。容器は町立病院の透析治療で使われる精製水の容器を再利用し、販売している。



余剰熱を活用したマンゴー栽培



研究棟内のチョウザメ飼育施設



研究棟内のサツマイモ貯蔵施設

平成27年度からは環境省の地域連携・低炭素水素実証事業の採択を受け、民間事業者が中心となってバイオガスから水素を製造し、輸送・供給までの一貫したサプライチェーンの構築を確立するための実証事業を実施している。バイオガスの水蒸気改質により水素を製造し、純水素型燃料電池やFCV、FCフォークリフトの燃料としての利用を図り、低炭素社会の実現を図るとともに次世代エネルギーの普及・推進を目指している。

平成28年度には酪農家17戸を対象とした町内2基目の集中型バイオガスプラントを、平成30年には国営事業により10基の個別型バイオガスプラントを整備し、家畜排せつ物の適正処理、有効活用を推進している。

同町には約20,000頭程度の乳牛が飼養されているが、バイオガスプラントで処理されているのは約4割程度である。残りは酪農家自ら堆肥化処理等を行っている。今後は、未整備地区のバイオガスプラントを整備し、基幹産業である農業の生産性向上を図るとともにバイオマスエネルギーの有効活用を図り、新産業の創出や地域経済活性化を推進し、地域住民に快適な生活環境を提供するため、地域循環型社会の構築を目指していく。



町内2基目の  
集中型バイオガスプラント



**限りある地球の資源を大切に！**

**◆リデュース・リユース・リサイクル推進協議会は**

消費者・教育機関・産業界・行政など多くの主体と連携しつつ日本全国で3R（リデュース：発生抑制、リユース：再使用、リサイクル：再資源化・再生利用）、資源の循環利用を推し進めてゆくことを目的としています。

本協議会は、リサイクル推進協議会として平成3年9月に発足いたしましたが、3R推進の重要性を認識し、循環型社会の形成の一翼を担うために、平成14年6月に現在の名称に変更いたしました。

循環型社会の形成に向けて3R、資源の循環利用を推し進めるために、これからも普及・啓発などの活動を積極的に行ってまいります。

協議会のホームページ：<https://www.3r-suishinkyogikai.jp/>